

# 自然を見る、感じる、記録する—ナチュラリスト青柳昌宏のスケッチと軌跡

## 出品資料リスト・解説(一部掲載)

【展示替】

前期4/10～5/7 ◇

後期5/8～5/31 ◆

2023年4月10日(月)～2023年5月31日(水)

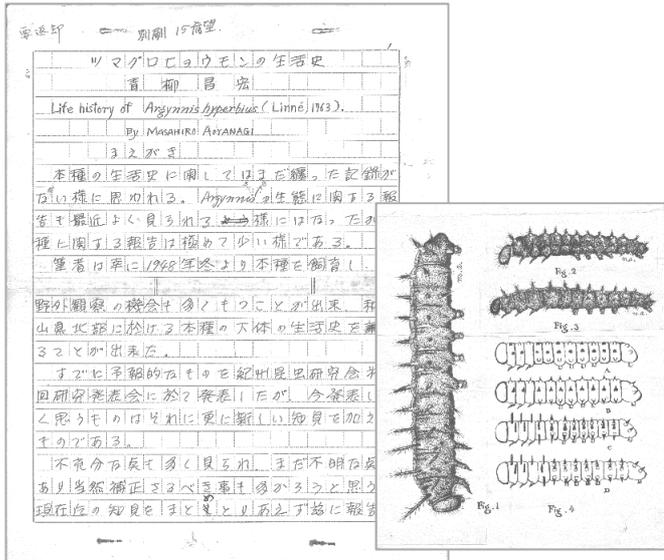
筑波大学附属中央図書館

資料番号	資料名	作者	員数	制作年(月日)	技法・素材	サイズ	所蔵者
<b>A 高校時代の資料</b>							
◇1	『飼育記録』ノート	青柳昌宏	1冊	昭和26(1951)年～昭和27(1952)年	インク、鉛筆、紙	A5判 大学ノート	個人蔵
◇2	「ツマグロヒョウモンの生活史」原稿と原図	青柳昌宏	22枚 原図4枚	昭和26(1951)年	インク、鉛筆、紙	A4判 原稿用紙	個人蔵
<b>B 東京教育大学時代の資料</b>							
<b>【講義ノートなど】</b>							
◇3	一般植物学(石川茂雄)ノート	青柳昌宏	1冊	昭和28(1953)年	インク、赤鉛筆、紙	B5判 大学ノート	個人蔵
◇4	昆虫学(朝比奈正二郎)ノート	青柳昌宏	7枚	昭和32(1957)年	インク、紙	A5判 ルーズリーフ	個人蔵
◆5	下田臨海実験所実習アルバム	青柳昌宏	1冊	昭和32(1957)年	インク、紙、写真	20.5×24.1cm	個人蔵
<b>【精密スケッチ】</b>							
<b>《農学部時代》</b>							
<b>*農学部卒業研究原因</b>							
◇6	ドクガ 幼虫	青柳昌宏	1枚	昭和31(1956)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.5cm	個人蔵
◇7	ドクガヤドリバエ	青柳昌宏	1枚	昭和31(1956)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.6cm	個人蔵
◇8	モモクロサムライコマユバチ	青柳昌宏	1枚	昭和31(1956)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.7cm	個人蔵
<b>《理学部時代》</b>							
<b>*丘英通「動物分類学実験」</b>							
◇◆9	アメーバ属の一種 <i>Amoeba sp.</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.5cm	個人蔵
◇10	オニグモ-1 <i>Araneus ventricosus</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.8cm	個人蔵
◇11	オニグモ-2 <i>Araneus ventricosus</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.6×19.9cm	個人蔵
◇12	アメリカザリガニ-1 <i>Cambarus clarkii</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.2cm	個人蔵
◇13	ハマグリ <i>Meretrix lusoria</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.7×19.6cm	個人蔵
<b>*丘英通「動物分類学実験」 下田臨海実験所</b>							
◆14	ユメエビ属の一種 <i>Lucifer sp.</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.9cm	個人蔵
◆15	エボシミジンコ属の一種 <i>Evadne sp.</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.5cm	個人蔵
◆16	ウミサボテンムシ属の一種 <i>Acanthometron sp.</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.7×19.8cm	個人蔵
◆17	ヤムシ属の一種 <i>Sagitta sp.</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.8cm	個人蔵
◆18	ヤコウチュウ <i>Noctiluca scintillans</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.5cm	個人蔵
◆19	フジツボのノープリウス幼生 <i>Balanus sp.nauplius(cirripedia)</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.5cm	個人蔵
◆20	ペリディニウム属の一種 <i>Peridinium sp.</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.7×19.6cm	個人蔵
◆21	サフィリナ属の一種 <i>Sapphirina sp.</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.5×19.8cm	個人蔵
<b>* incoming 重盛「動物形態学実験」 下田臨海実験所</b>							
◆22	ムラサキウニ <i>Heliocidaris crassispina</i>	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	丸ペン、インク、紙	13.6×19.9cm	個人蔵
◆23	ムラサキウニ <i>Heliocidaris crassispina</i> (鉛筆スケッチ)	青柳昌宏	1枚	昭和32(1957)年	鉛筆、紙	13.6×19.8cm	個人蔵
<b>C フィールドノートに描かれたスケッチ</b>							
◇◆24	オーストラリア 『AUSTRALIA-NOTE VOL.1』	青柳昌宏	1冊	昭和44(1969)年～昭和45(1970)年	ボールペン、紙	9.5×15.7cm	個人蔵
◇◆25	南極 『observation なんきょくしんぶんメモ』	青柳昌宏	1冊	昭和46(1971)年	ボールペン、紙	9.6×15.8cm	個人蔵
◇26	南極 『JARE-1』	青柳昌宏	1冊	昭和46(1971)年～昭和47(1972)年	ボールペン、紙	9.5×15.7cm	個人蔵
◆27	南極 『PENRE 1』	青柳昌宏	1冊	平成元(1989)年～平成2(1990)年	鉛筆、ボールペン、紙	9.5×15.7cm	個人蔵
◇◆28	南アフリカ、オーストラリア 『EECS CAPE TOWN』	青柳昌宏	1冊	昭和55(1980)年～昭和56(1981)年 昭和57(1982)年	鉛筆、ボールペン、紙	12.6×18.4cm	個人蔵
<b>D 書簡に描かれたスケッチ</b>							
◆29	青柳啓子宛書簡(南極観測船ふじより)オーロラのスケッチ	青柳昌宏	1枚	昭和47(1972)年2月25日	ボールペン、紙	20.2×25.2cm	個人蔵
◇30	青柳伯子宛書簡 南極ロス島ケープバードより 第3信 ケープバード アデリーペンギン北ルッカリー	青柳昌宏	1枚	昭和53(1978)年11月24日	ボールペン、紙	21.1×29.6cm	個人蔵
◆31	青柳伯子宛書簡 南極ロス島ケープバードより 第15信 海岸の氷の断面図、けがをしたアザラシの手当	青柳昌宏	1枚	昭和53(1978)年12月31日	ボールペン、色鉛筆、紙	21.1×29.6cm	個人蔵
◇32	青柳伯子宛書簡 南極ロス島ケープバードより 第15信 アデリーペンギンの上陸失敗の様子	青柳昌宏	1枚	昭和54(1979)年1月1日	ボールペン、色鉛筆、紙	15.8×22.8cm	個人蔵

資料番号	資料名	作者	頁数	制作年(月日)	技法・素材	サイズ	所蔵者
<b>E スケッチブックに描かれたスケッチ</b>							
◇33	オングルカルペンのアデリーペンギン さまざまなしくさ	青柳昌宏	1枚	昭和47(1972)年1月19日	ボールペン、紙	25.7×35.7cm	個人蔵
◆34	アデリーペンギン No.0015 抱卵	青柳昌宏	1枚	昭和47(1972)年1月18日	ボールペン、紙	25.7×35.7cm	個人蔵
◇◆35	アデリーペンギン No.0015とひな 石ひろい	青柳昌宏	1枚	昭和47(1972)年1月18日	ボールペン、紙	25.7×35.7cm	個人蔵
◇36	海からとびあがるアデリーペンギンと コウテイペンギン	青柳昌宏	1枚	昭和47(1972)年2月21日	ボールペン、紙	25.7×35.7cm	個人蔵
◇◆37	オングルカルペン アデリールッカリーの一部	青柳昌宏	1枚	昭和47(1972)年1月19日	ボールペン、紙	25.7×35.7cm	個人蔵
◇◆38	アデリーペンギン No.0012とひな	青柳昌宏	1枚	昭和47(1972)年1月18日	ボールペン、紙	25.7×35.7cm	個人蔵
◇◆39	SANCCOBのジャッカスペンギン (ケープペンギン)のぬいぐるみ	青柳昌宏	1枚	昭和47(1972)年4月15日	ボールペン、紙	25.7×35.7cm	個人蔵
◇40	南極海 氷山10姿	青柳昌宏	1枚	昭和47(1972)年3月2日	ボールペン、紙	25.7×35.7cm	個人蔵
◆41	Mt.Sonder Safari Lodge (中央オーストラリア横断サファリ)	青柳昌宏	1枚	昭和49(1974)年8月8日	ボールペン、紙	18.2×26.3cm	個人蔵
◆42	ニュージーランド エンダービー島の キガシラペンギン	青柳昌宏	1枚	平成7(1995)年1月4日	鉛筆、紙	17.1×25.2cm	個人蔵
<b>F 筑波大学附属盲学校時代の資料、ネイチュア・フィーリングに関する資料</b>							
<b>*サーモフォームによる教材</b>							
◇43	ミドリムシ(サーモフォームによる触図)		1枚	1970年代	プラスチック	27.9×29.0cm	筑波大学附属視覚 特別支援学校
◆44	アメーバ(サーモフォームによる触図)		1枚	1970年代	プラスチック	28.0×29.0cm	筑波大学附属視覚 特別支援学校
◇◆45	クチビルケイソウなど(サーモフォームによる触図)		1枚	1970年代	プラスチック	27.9×29.0cm	筑波大学附属視覚 特別支援学校
<b>*原因</b>							
◇◆46	アメーバとミドリムシ(触図作成用原図)	青柳昌宏	1枚	1970年代	ロットリングペン、インク、紙	19.0×26.9cm	筑波大学附属視覚 特別支援学校
◇◆47	ミカツキモ、ツツミモ、ケイソウ、 ユレモなど(触図作成用原図)	青柳昌宏	1枚	1970年代	ロットリングペン、インク、紙	19.0×26.9cm	筑波大学附属視覚 特別支援学校
<b>*原版</b>							
◇48	ミドリムシ(触図作成用原版)		1枚	1970年代	布、サンドペーパー、 たこ糸など、紙	16.5×24.4cm	筑波大学附属視覚 特別支援学校
◆49	アメーバ(触図作成用原版)		1枚	1970年代	サンドペーパー、 ガラスビーズなど、紙	17.0×22.3cm	筑波大学附属視覚 特別支援学校
◇◆50	クチビルケイソウなど植物プランクトン (触図作成用原版)		1枚	1970年代	布、糸、 プラスチックネットなど、紙	19.8×25.4cm	筑波大学附属視覚 特別支援学校
<b>*その他</b>							
◇◆51	「サーモフォーム Thermoform 原板 制作の要点」	青柳昌宏	1枚	昭和51(1976)年	ロットリングペン、インク、紙	18.2×25.3cm	筑波大学附属視覚 特別支援学校
◇◆52	『ネイチュア・フィーリング からだの不自由な人 たちとの自然観察』 日本自然保護協会	青柳昌宏監修 ・執筆(共著)	1冊	昭和63(1988)年 思索社 平成6(1994)年 平凡社	印刷	A5変型判	個人蔵
◇◆53	『ネイチュア・フィーリング 実践テキスト 多様な個性で広がり五感で深める特別な 自然観察会』 日本自然保護協会	鳥山由子監修 ・執筆(共著)	1冊	令和3(2021)年	印刷	B5判	個人蔵
◇◆54	写真：筑波大学附属盲学校 夏期学校における自然観察(木ゆすり法)	青柳昌宏	1枚	昭和54(1979)年7月16日	カラー写真	9.2×13.0cm	個人蔵
◇◆55	写真：ネイチュア・フィーリング観察会 (木の肌をさわって感じる)	青柳昌宏	1枚	1990年代	カラー写真	8.2×11.7cm	個人蔵
<b>G その他の資料</b>							
◇◆56	SANCCOBのジャッカスペンギン (ケープペンギン)のぬいぐるみ	SANCCOB	1個	昭和47(1972)年	フェルト、合成皮革、プラスチック	高さ30cm	個人蔵
◇◆57	青柳昌宏愛用の道具：双眼鏡、ボールペンなど	Niconほか	1台ほか	1970年代～		口径35mmほか	個人蔵



# 《出品資料解説》(一部掲載)

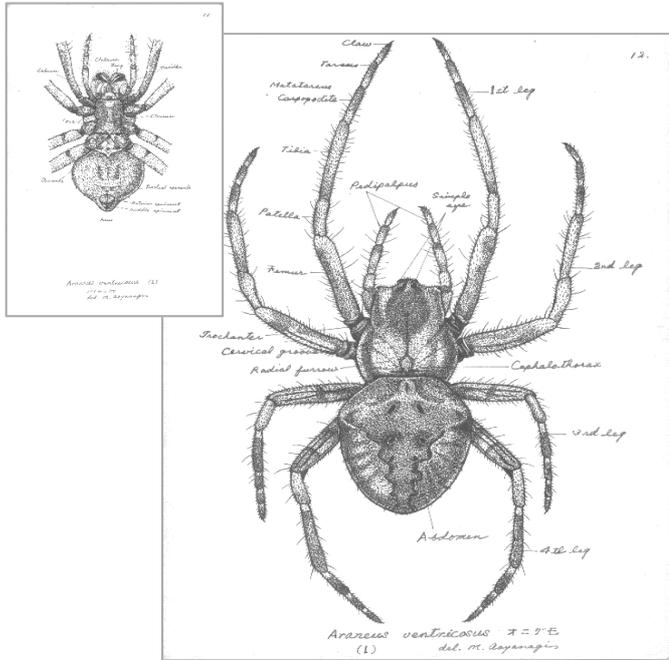


青柳昌宏 AOYANAGI Masahiro

## 2 「ツマグロヒョウモンの生活史」原稿と原図 1綴(22枚)

インク、鉛筆 1951年  
A4判 原稿用紙 個人蔵

青柳は、中学校時代から継続的に観察していたツマグロヒョウモンについて、『紀州昆虫』(3(1)1951)にまとめたが、これはその原稿と原図である。ツマグロヒョウモンに関しては、この後にもいくつかの論考にまとめ、まだ明らかになっていなかった生活史の一端を明らかにした。当時青柳のような昆虫少年たちは、雑誌『新昆虫』などの「ムシペン」という投稿欄を通して全国の虫友と繋がり、アマチュア昆虫学者の磐瀬太郎(1906~1970)との文通によって、日本の蝶の生活史を解明していった。磐瀬太郎との交流は大人になっても続き、書簡なども残っている。

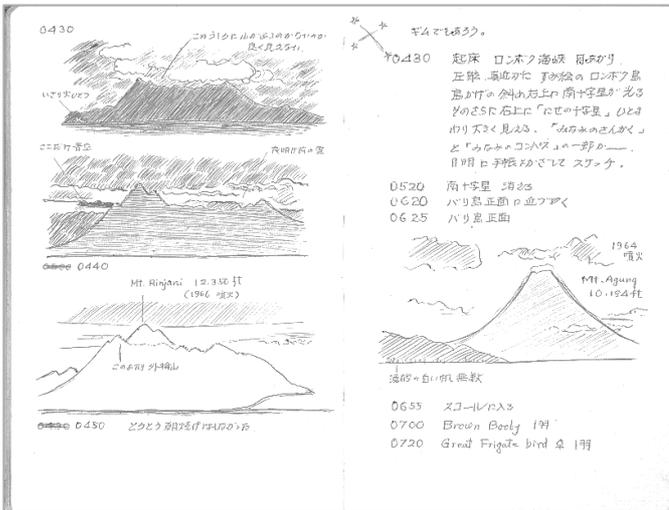


青柳昌宏 AOYANAGI Masahiro

## 10 オニグモ-1 *Araneus ventricosus* 各1枚 11 オニグモ-2 *Araneus ventricosus*

丸ペン、インク 1957年  
13.5×19.8cm 13.6×19.9cm 個人蔵

青柳が東京教育大学理学部3年次の丘英通(1902~1982)の動物分類学実験の授業で描いた精密スケッチ。丘英通は実験発生学の先駆者で、進化論を一般に紹介した丘次郎(1868~1944)の三男である。このオニグモ(表・裏)は、数多く残っている精密スケッチの中でも、とりわけ精緻に描かれている。当時実験授業の精密スケッチは成績になったため自ずと力が入ったようで、青柳は著書『テオリア』の中で、元々遠視だったが、このような精密スケッチを何十枚と仕上げる中で近視になってしまったと書いている。

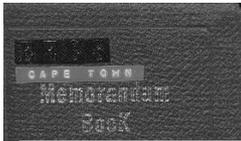


青柳昌宏 AOYANAGI Masahiro

## 25 南極『observation なんきょくしんぶんメモ』 1冊

ボールペン 1971年  
9.6×15.8cm 個人蔵

青柳は、第13次南極地域観測隊の一員として航海中、往復路で目視できた海鳥と南極観測船ふじに飛来した昆虫の出現記録を録っていた。これはその時往路で記録したフィールドノートである。アホウドリ、フルマカモメ等の海鳥の他に、数種のトンボの記録もある。1971年12月5日にロンボク海峡を通過した時の記述が興味深い。海峡の通過を完全に見届けたいと4:30に起床し「生物学徒たるもの、いちどは通ってみたいウォーレスゆかりのロンボク海峡、フルにその通過を体験することこそ、得がたき幸せ」と記している。

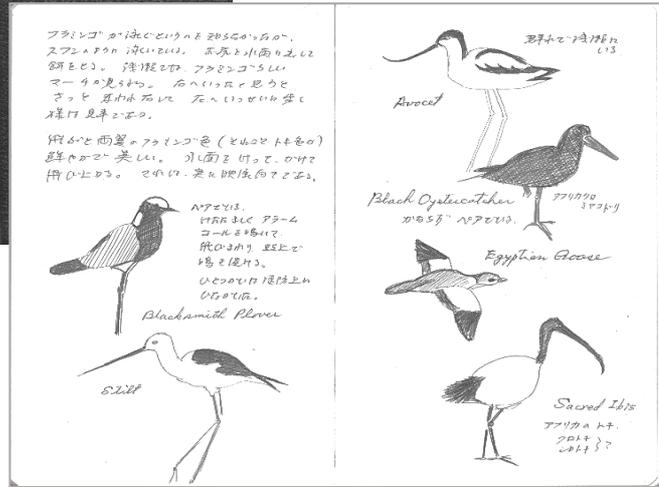


青柳昌宏 AOYANAGI Masahiro

### 28 南アフリカ、オーストラリア『EECS CAPE TOWN』 1冊

鉛筆、ボールペン 1980年～1981年、1982年  
12.6×18.4cm 個人蔵

フィールドノートの前半は、1980年から1981年、オーストラリアを訪れ自然観察をした時の記録、後半は、1982年に南アフリカを訪れた時の記録である。南アフリカのフラミンゴ、アフリカクロキなどの鳥類のスケッチが美しい。これは、南アフリカ沿岸鳥類保護財団(SANCCOB)及び南アフリカ水産庁長官の招聘とケープタウン大学パーシー・フィッツパトリック・アフリカ鳥類学研究所の招待を受け、訪問したもので、ジャッカスペンギン(ケープペンギン)の現状観察とペンギン保護について調査、レスキューセンターでのボランティア、ケープタウン大学において南極のペンギンについての講義などをおこなった。SANCCOBの創設者ウェストファル夫妻、ボランティアのバロウス婦人との交流を示す資料も多く残る。

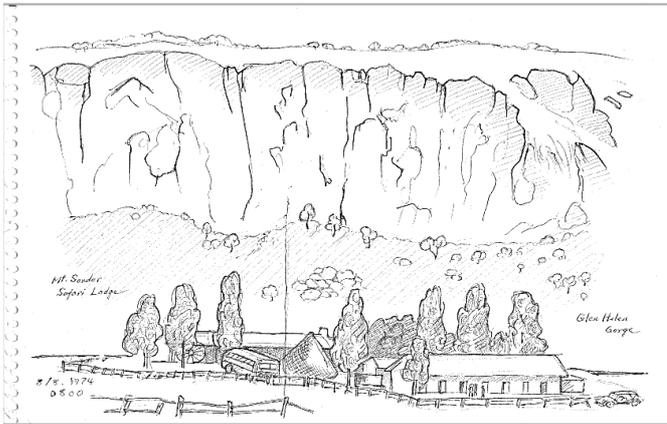


青柳昌宏 AOYANAGI Masahiro

### 41 Mt.Sonder Safari Lodge (中央オーストラリア横断サファリ) 1枚

ボールペン 1974年8月8日  
18.2×26.3cm 個人蔵

青柳が1974年8月、中央オーストラリア横断サファリ隊を結成し、ダーウィンより大陸中央のアリススプリングスを経て、パースに至る4460kmを踏査した際、グレン・ヘレンにあったマウント・ソンダー・サファリ・ロッジという山小屋と背後の崖壁を描いたもの。アリススプリングスからパースまでの半砂漠地帯は、日本人として最初の通過者になる地で、通過に許可を要する広大な原住民居住地域を含んでいた。1971年、南極観測船ふじに乗ってフリーマントルに寄港した時、ピナクルズを案内してくれた奥地ツアーのパイオニアとの出会いによって企画できた旅であった。青柳はこのように、世界の自然を知ることで日本の自然をより深く知りたいという望みを実現していった。

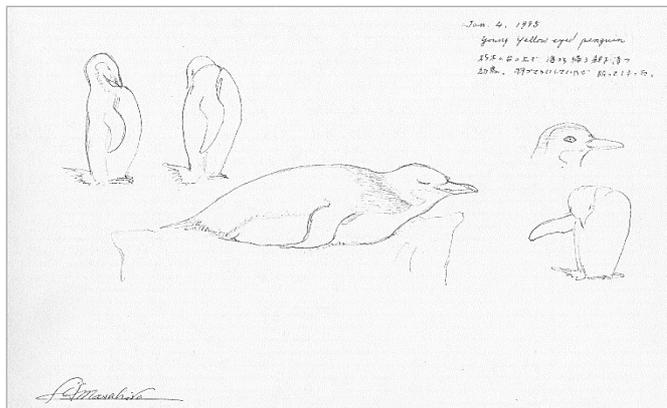


青柳昌宏 AOYANAGI Masahiro

### 42 ニュージーランド エンダービー島のキガシラペンギン 1枚

鉛筆 1995年1月4日  
17.1×25.2cm 個人蔵

青柳は、1994年12月から1995年1月にかけて、ニュージーランドと亜南極の島々をペンギン基金のメンバーと共に訪れた。(第2回PENRE) 青柳が設立したペンギン基金の目的の一つ、ペンギンの野生状態の観察と現地の保護団体との交流のためである。その調査を《ペンギン基金ペンギン調査 Penguin Research Expedition》と呼び、この時は亜南極の孤島の環境をゾデアック・クルーズ、あるいはブッシュ・ハイキングで体感し、11種類のペンギンと9種類のアホウドリを野生状態で観察している。このスケッチは、ニュージーランドの南に位置するオークランド諸島の一部、エンダービー島で描かれた。柔らかな鉛筆のタッチが、そのまま青柳のペンギンに対する温かい眼差しに感じられる。



自然を見る、感じる、記録する  
— ナチュラリスト青柳昌宏のスケッチと軌跡 出品リスト・解説(図録折り込み)  
執筆・編集：内田啓子  
発行者：筑波大学自然保護寄附講座  
発行日：2023年4月10日  
本資料の全部または一部を無断にて転載・複製することを禁じます